

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育（岡山県教育委員会）



安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実ほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一



作品

一般部門

わが家の幼稚園児の息子とは、寝る前に必ず本を一冊だけ一緒に読んで、息子が寝るまで側にいます。平日24時間の内、僅かな時間しか接することができず、何も出来ない父親ですが、帰宅が遅く息子が寝ていない限り、ビールもコハン

も後回しにして、唯一、日々ふれあえる時として、物心ついた頃から続けています。私と息子の暗黙の日課として、今日も明日も明後日も。

父子の暗黙の日課

マンガ／マエバラチカ

注目!

夢育ポイント

仕事に家事に忙しくてなかなか子どもと過ごす時間が取れない。そう思ってる親御さんはたくさんいらっしゃるでしょう。「久しぶりに、次の日曜日には遊園地に出かけよう。」それもいいのですが、この日記が教えてくれているのは、日課です。今回の夢育ポイントは「ルーティン」。自分自身の日課に、子どもとの関わりを入れて、当たり前にしていくことをおすすめします。このエピソードでは、寝る前の読み聞かせだけでなく、その後のビールで晩酌までを日課にしているところがいいですね。ルーティンにしてしまうと、当たり前になり、無理してる感がなくなります。夜でも朝でもいいので、子どもとちょっとした日課を作ってみてはどうでしょうか。（中山芳一）